

青木優子の 肉便器契約

R-18

BOOMDRAGONKID

社長室

大変申し訳
ございません

今回の問題の責任は
全て自分にあると
認識しております

お叱りを受けるのも
当然だとは思いますが
自分で言うのも
厚かましいことは
重々承知しております

ですが…
私にはもうすぐ
生まれる子供があり
それに住宅ローンも
抱えております

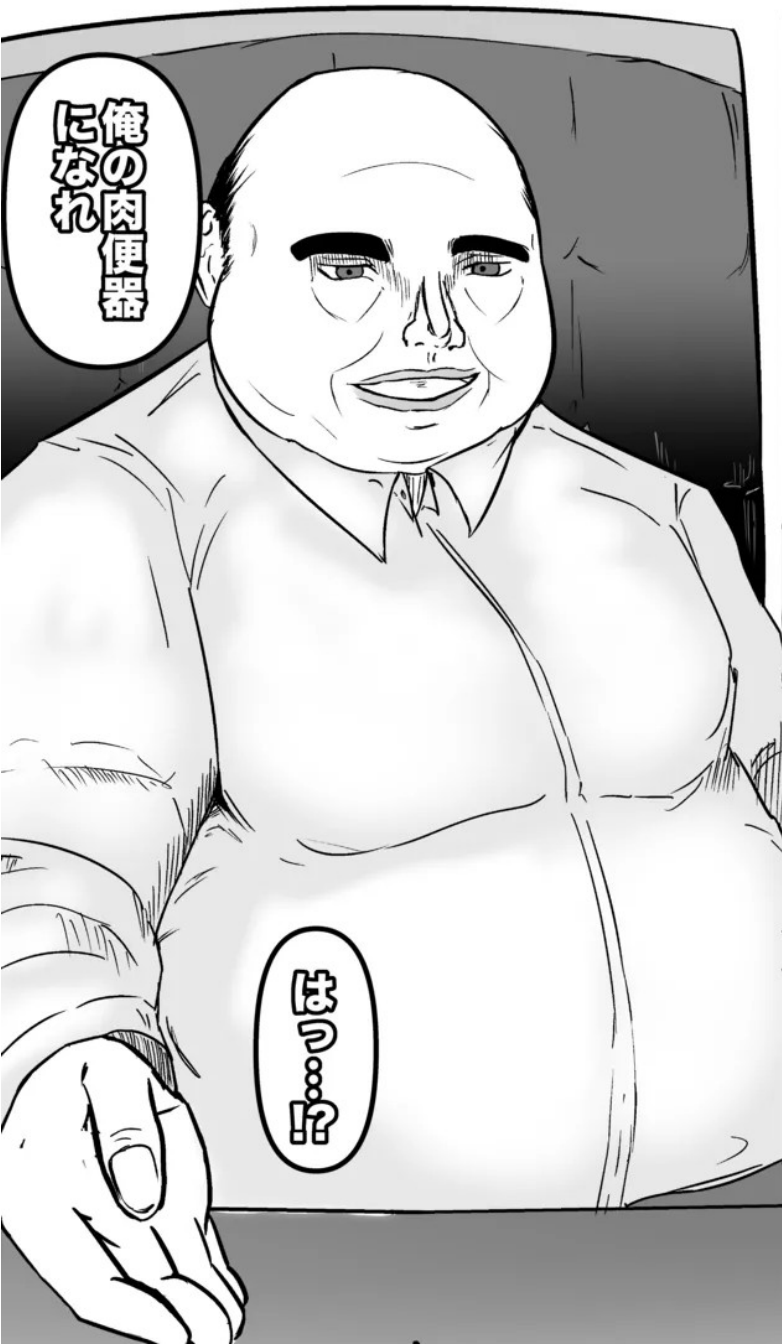
この巨額の賠償金には
本当に耐えられません
どうか…お願いいたします…



会社の立場として
お前を助けることは
できない

会社は少なからぬ
損害を被った
それに比べればお前の
賠償金など
氷山の一角に過ぎん

青木君
お前の事情は
理解できる
だがお前の問題で



俺の肉便器
になれ

はっ…!?



しかし個人
としてはなら
方法はある



本当ですか!?
具体的にどうすれば…

えっ…
それは…

私におっしゃって
いるのですか…？

ここにお前
以外いるか？

ちよ、ちよっと
待ってください
私は男ですよ
それに30歳手前で

結婚もしていて
子供ももうすぐ
生まれます

それは全て
承知しておる
だからこそお前が
良いのだ

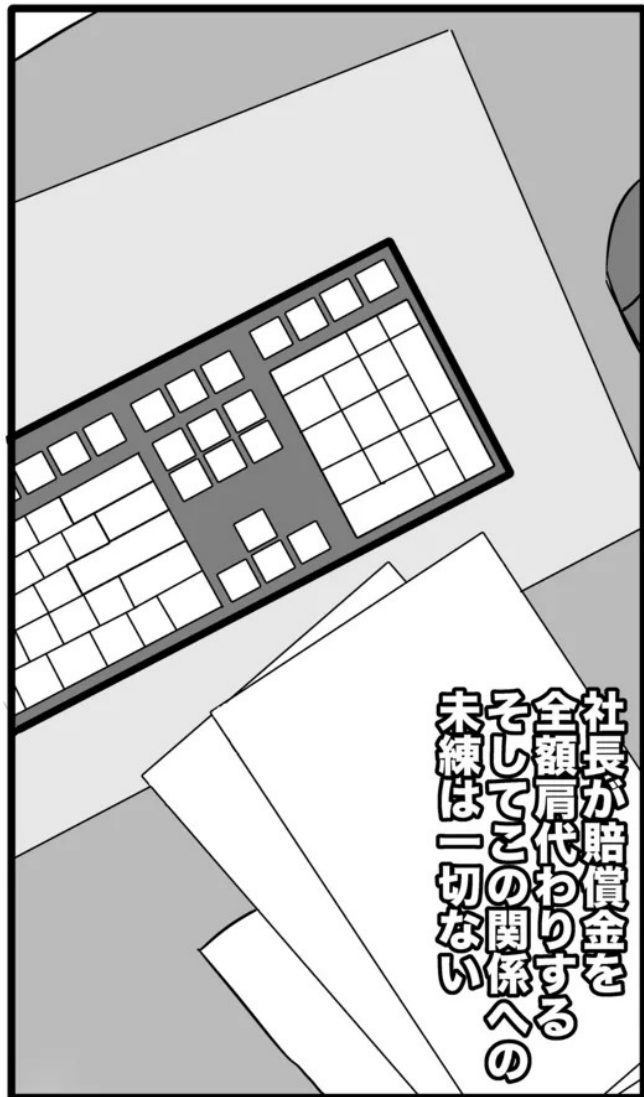
そして俺は
人を見る目
がある

お前の女装の
素質は最高だ

詳細は後ほど
メールで送る
時間はない

今日中に
しつかり
考える

良い返事を
待っている



おう、その姿、
よく似合ってるな

これから何を
するのか
分かってるん
だろう？
優子

優子!?
なんだそれ!?

女装している間は
優子という名だ
喋り方も女らしくする

分かったら
フェラチオ
お願いね

うわ…でかすぎる…
俺のより少なくとも
三倍はでかい
俺のは普通の
サイズなのに

近くで見るとさら
にでかく感じる

これが本当に…
人間のチンコ
なのか…

赤ん坊の腕
みたいな太さだ

こんなの口に
入るわけない
適当に舐めておごう

尿臭と汗の
臭いが混ざった
濃い匂い…クサイ…
じよっぱくて苦い…
キモチワルイ

仕方ないな

!?

本当のフェラチオを
教えてやる!!!

歯が当たらない
ように気をつける

まさか:
私の口が:
社長のデカチンに
犯されてる...

口の中がチンポで
いっぱいだ:
喉の奥まで
えぐられるようで:
ゴッポゴッポと:

こんなに乱暴に
されたら:
アゴが外れそう...

臭いが脳に
までくる:
苦しい...

息ができない:
ヤバい...デカチンに
イキ殺される:
意識が...

素晴らしいぞ優子
その調子だ
もうすぐ...いく...



精液の味…
苦い…

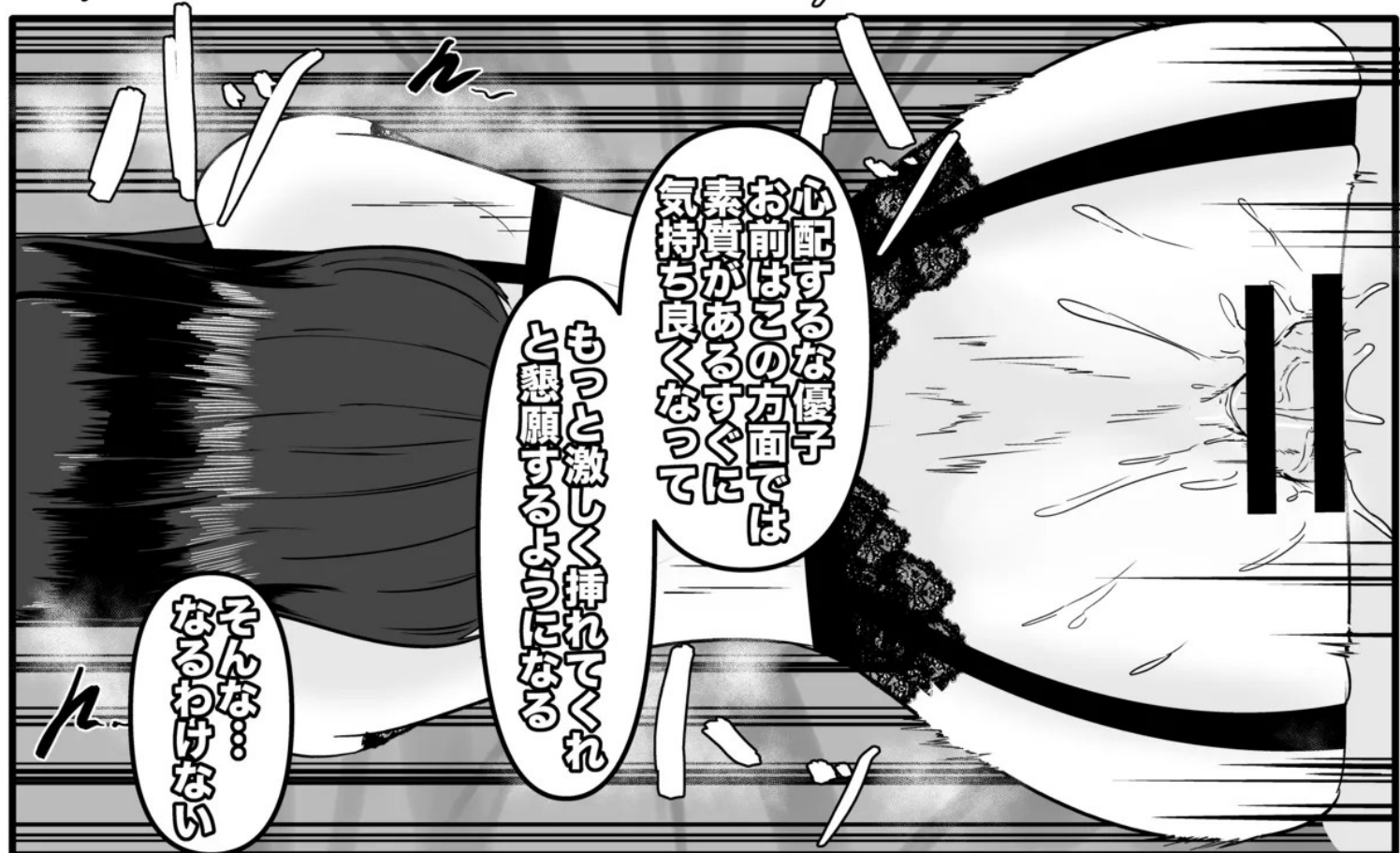
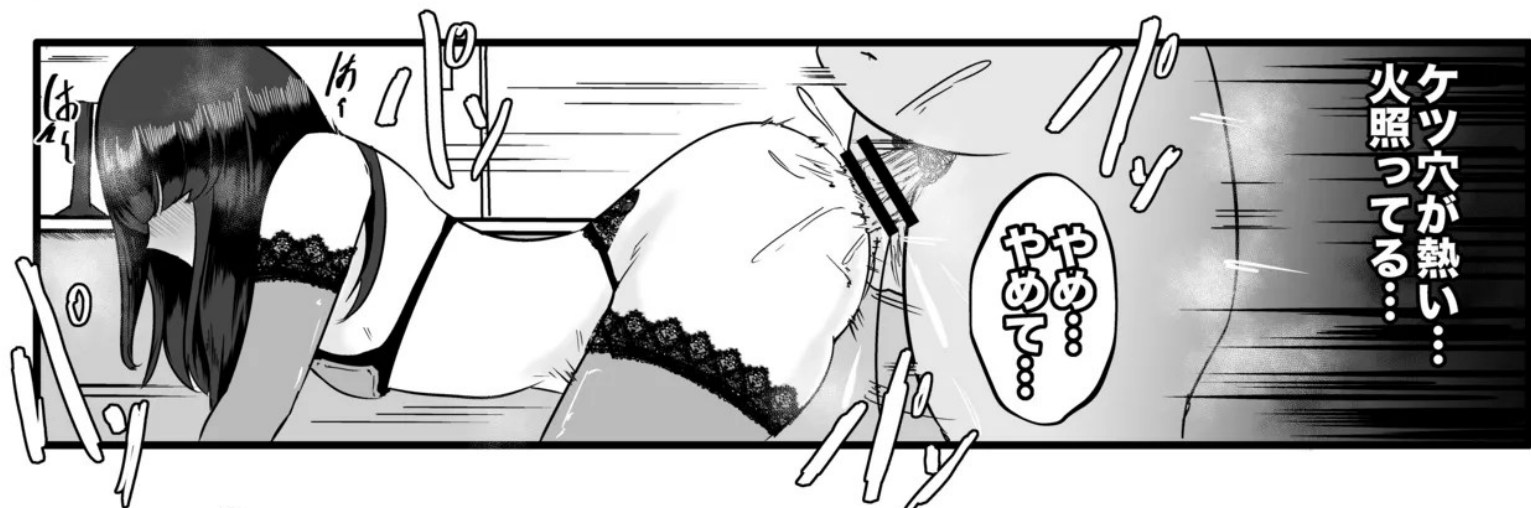
精液の量が半端ない…
精液で溺死
しそうになった…

なのにこんなに
大量に射精
したのに…

まだこんなに
硬いままなのか









ケツ穴の締めまりが
良くなってきたな

えっ…お尻を
叩かれたのに…
電流のようにな…
快感が走った…

ぶる…

イッ…♡

ビリビリする…
ケツ穴の痛みが
引いてきた…

体の奥で何かが
湧き上がってくる…

こんなに締め
付けられちゃ…



記念すべき初の
中出しイけ!!!

あ♡♡♡♡♡ あ♡♡♡♡♡



えっ…
なにこれ…!!

チンチンは
触れて
ないのに…

なぜ射精して
しまったんだ



初めてでメスイキ
できるとはな
優子は天生の
肉便器の素質だ



メスイキ!?!
肉便器!?!
冗談じゃない…
俺は男だぞ
でもなぜ…

社長のデカチンが
ようやく抜け
たというのに…
ケツ穴がムズムズする…



まさか…
メスイキの味を
覚えてしまったのか…
そんなはず…

おいぼーっとして
どうした俺はまだ
満足していない

仰向けに寝て
ケツ穴を広げる

デカチンで犯されるのが
好きな変態じゃないのに…

あ
い

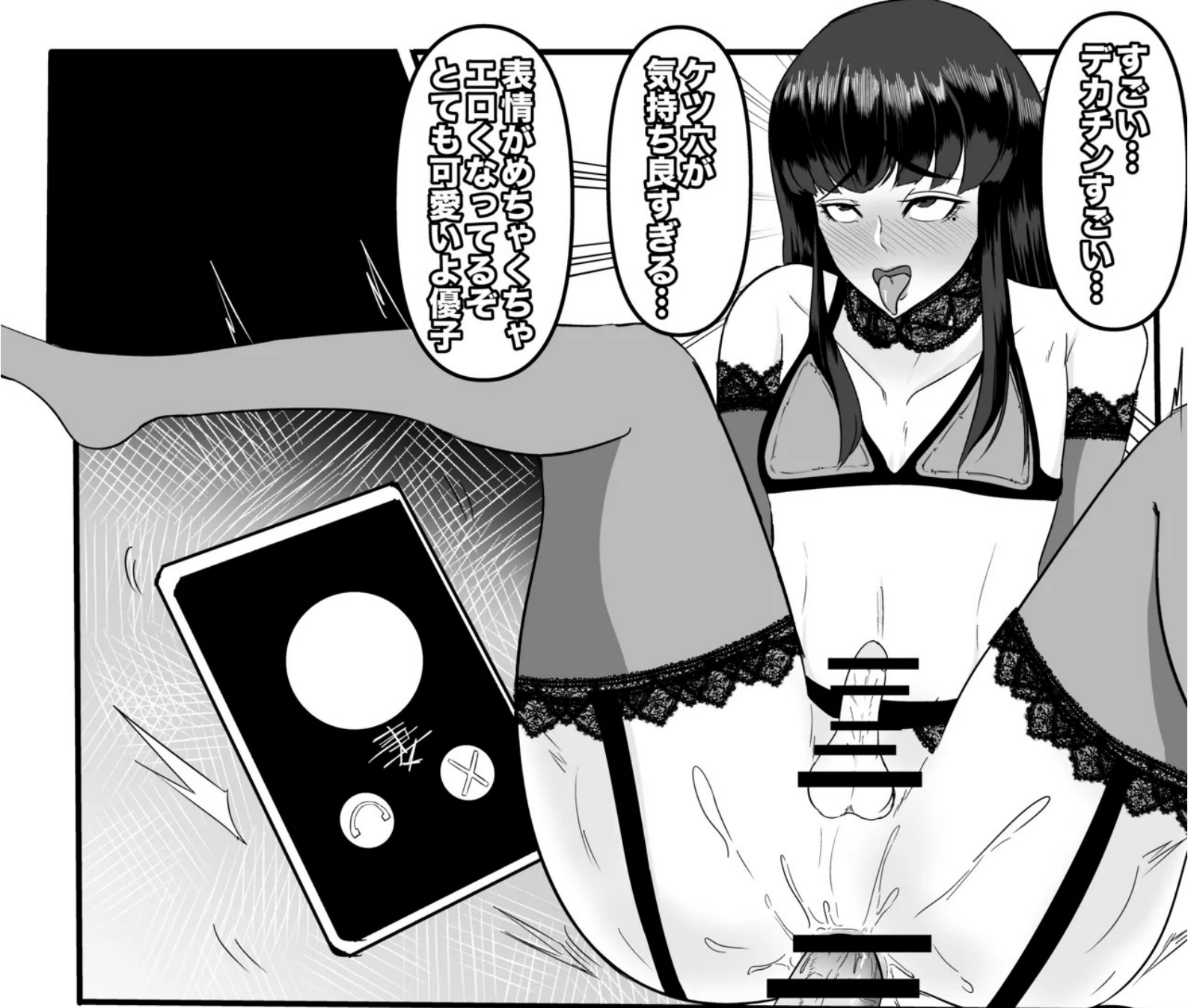
今この瞬間…
私のケツ穴は…
目の前のこのデカチンを
欲している…

俺の頭は
おかしくなって
しまったんだ

デカチン♡
デカチン♡

ああああ♡
あ♡っ♡あ

社長のデカチン
入ってきた♡



おや君の妻も
タイミンクがいいな
出る



えっ...



いつ終わるか
も分からない...

まだ仕事中で...
気づかなかった...



もしも?
メッセーじ?
ごめん...



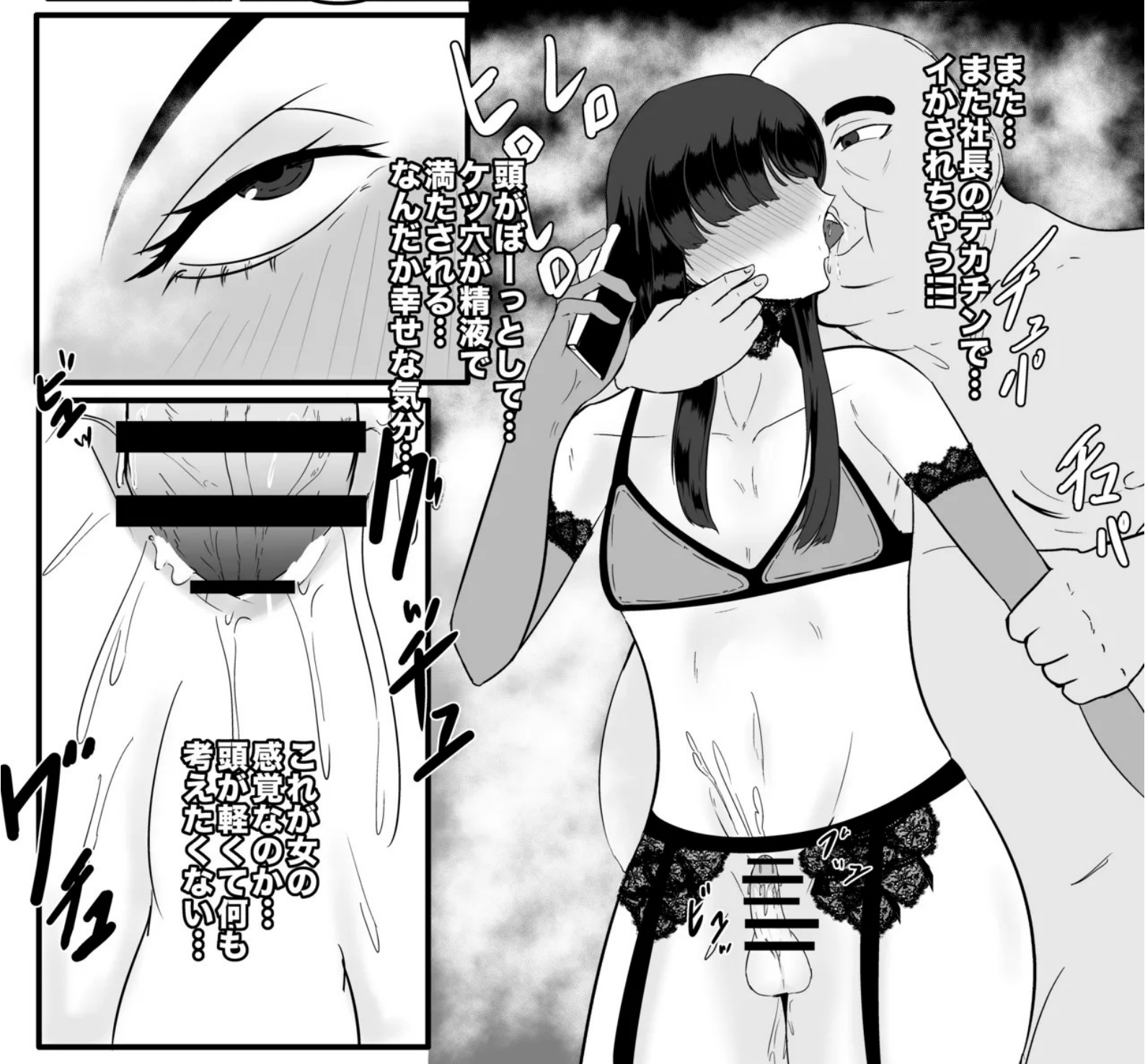
先に寝て
てくれ...
ん♡♡♡



大丈夫...ちよつと
物を落としちゃって...

変な声...?
聞き間違いだよ...

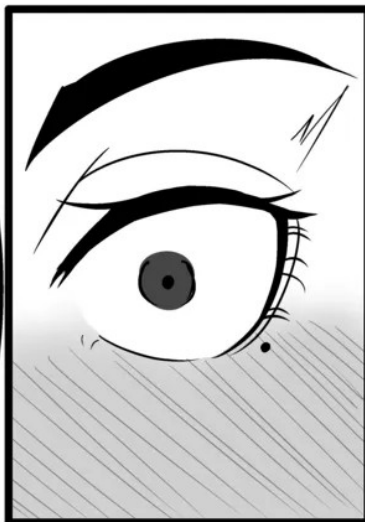
ん♡♡





な…なんで…
キスして
くるんですか

拒まなかった
じゃないか
むしる楽しか
い顔してたぞ



それは…
ただ反応できなかつ
ただけで…

チンポにキスで
きるのに
唇にキスするのは
ダメなのか

⋮

とにかく
続けよう
チンポをぎ
れいに舐める



社長のデカチンが…
私に雌としての喜びを
何度も味わわせてくれた

デカチンは…
私のケツ穴を…
自分専用の形に…
開拓したいかのように…
何度も激しく
ピストンしてきた

熱い精液が何度も何度も…
私のケツ穴に注ぎ込まれた

そして私はそれに
応えるように…
何度も雌のような
絶頂を迎えた

いつの間にか…
私はあえぎ声を上げ…
痴女のように腰を振り…
デカチンに跨っていた

またデカチンで
イッちゃっ…

私のケツ穴…
アナルしか受け付けない…
バカケツ穴になっちゃっ…

おっ、っおおお…
イク…
イク…
は、っん…

屋過ぎ…
精液と陽光に
包まれて
目が覚めた

乾いた精液が
体中にくっつき…
全身が精液の
臭いで満ちていた

お尻は痺れる
ようだった

社長はたった一晩で…
私に雌としての快楽を…
深く刻み込んだ

その時…
ひとつの疑問が浮かんた…
これからの自分は…
普通に戻るのだろうか…

To be continued.

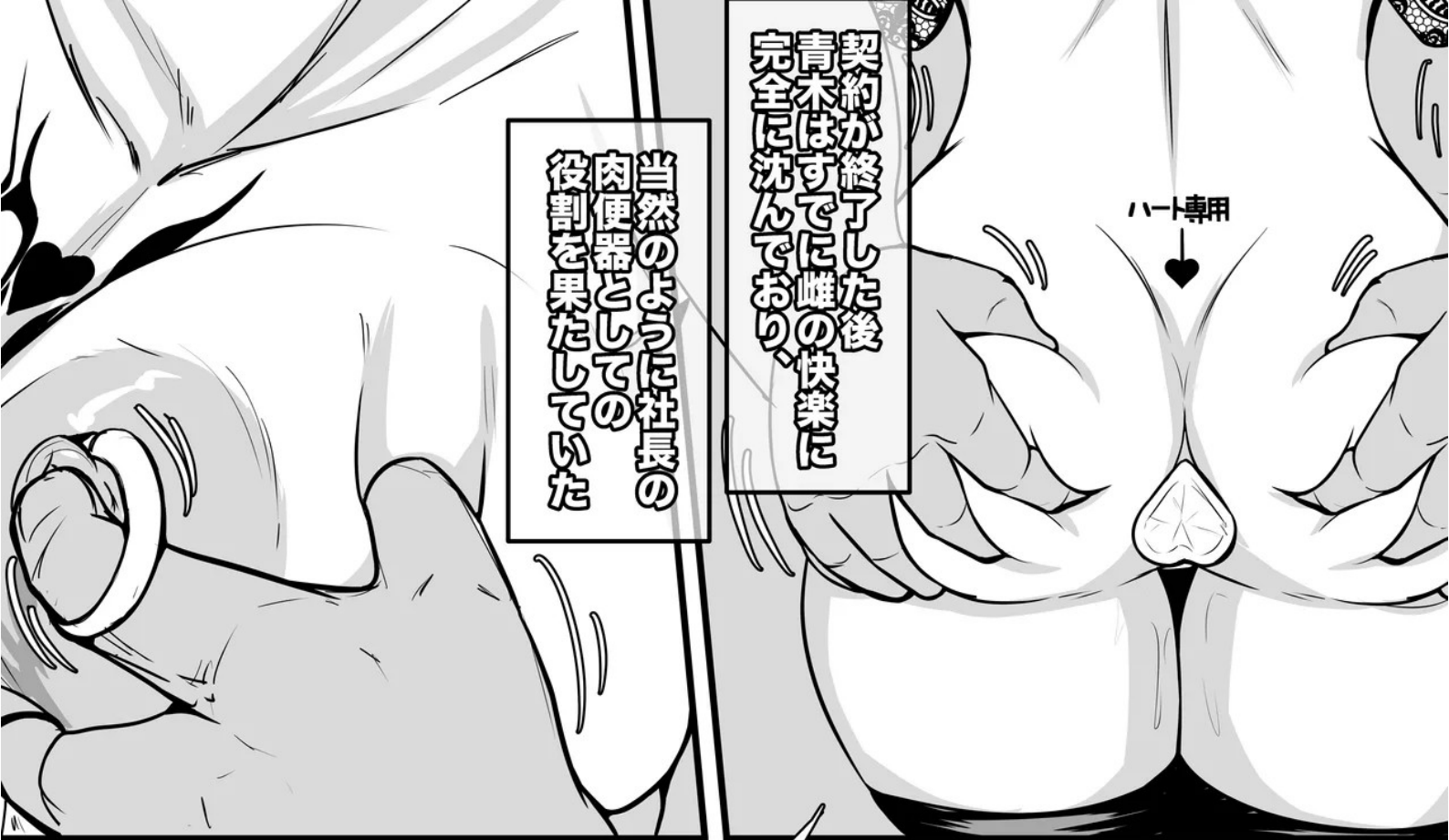
その後、
青木は優子として
見習い秘書として
再雇用された

この三ヶ月間、
優子はほとんど毎日、
社長室で社長と
アナルセックスをするが、

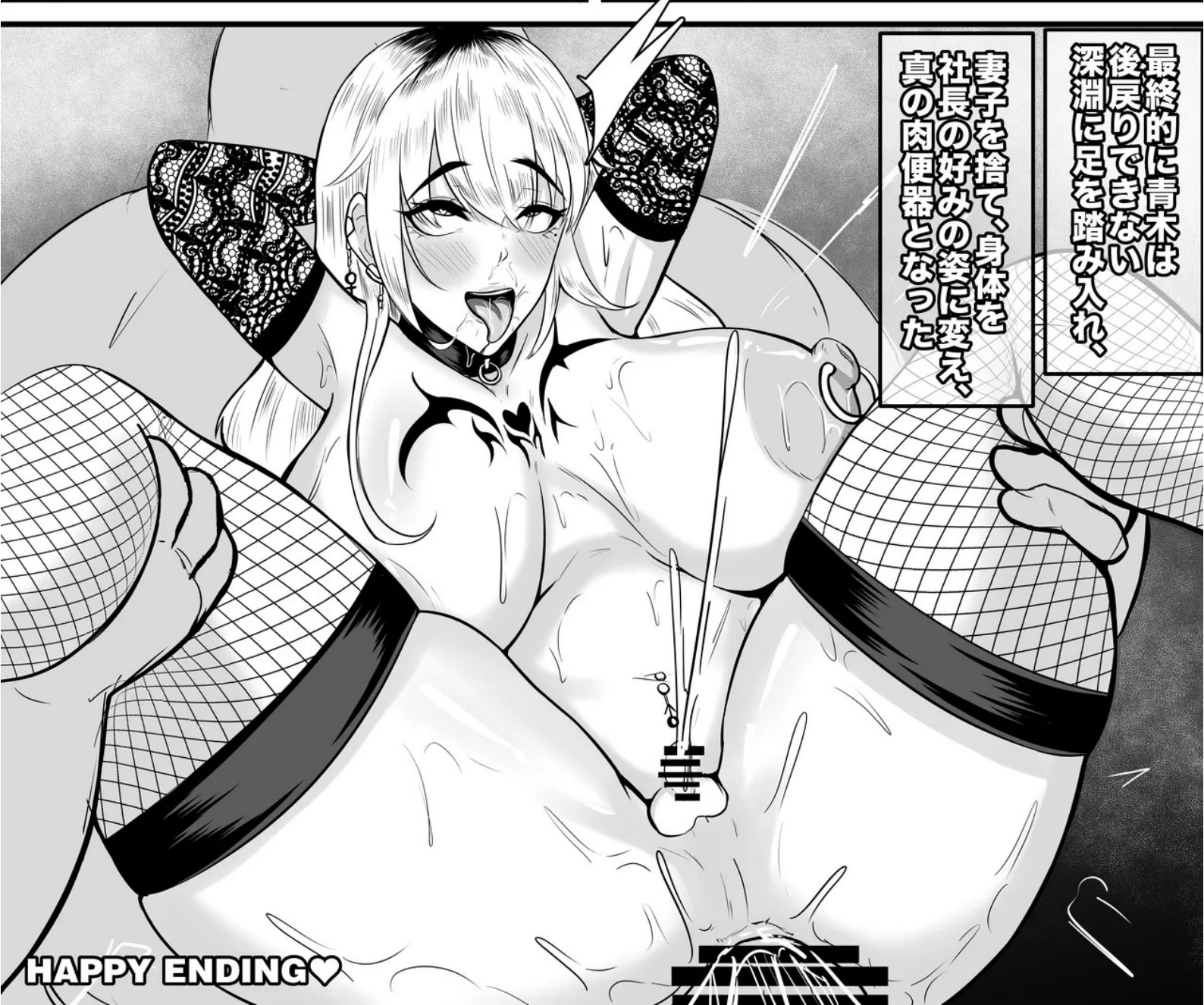
仕事という名目でホテル
に赴き、獣のように
狂ったように交尾を
繰り返した

すみません、
今夜も残業なの
で帰りません

こうして
三ヶ月が
過ぎた



当然のように社長の
肉便器としての
役割を果たしていた



妻子を捨て、身体を
社長の好みの姿に変え、
真の肉便器となった

最終的に青木は
後戻りできない
深淵に足を踏み入れ、



最近は長い脚とフェラ顔がとても好みます

**これは私が初めて制作した漫画です
振り返れば不十分な点も多かったですが、
最後までご覧いただいた皆様には
本当に感謝しています
もし気に入っていただけたなら幸いです
このストーリーにはまだ描きた
いことがたくさんありましたが
そろそろオロチマルさんの
作業に戻らないといけません**

誠にありがとうございます
ご購入とご視聴をいただき、
心より感謝申し上げます

これは私が初めて制作した漫画です
皆様にご購入いただけたことは、
何よりも大きな励みとなりました
現在の自分の実力はまだ
未熟だと自覚しておりますが
今後もさまざまな面で努力を重ね
より良い作品を創作で
きるよう精進してまいります
改めまして、ご購入とご視聴に
深く感謝申し上げます

右側は優子のオリジナルデザイン案でしたが
より清楚な印象を求め
現在のデザインに変更しました

